

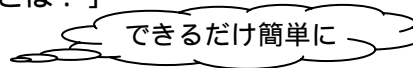
1) 淡路地域

日 時：平成16年6月5日(土) 14:00~17:00


会 場：東浦町立サンシャインホール/ホール


テ ー マ：「復興10年で、被災地ができたこと、できなかったこと、  
将来に生かしていくべきことは？」

14:00 はじめに  
(5分) ・あいさつ、趣旨説明

14:05 ステップ0：「ワークショップとは？」  
(20分) ・ワークショップの進め方  できるだけ簡単に  
・アイスブレイク(自己紹介)

14:25 ステップ1：「10年間を振り返って」  
(40分)  
被災地が ・震災後10年間でできたこと、できなかったこと

15:05 班別発表  
(10分) ・各班2分ずつ 


15:15 ~休憩~  
(10分) 

主体感覚が大切！  
『あなたが県民として』

各班から1人ずつ  
代表者を選出する

15:25 ステップ2：「将来に向けて」  
(40分)

被災地が { ・将来に向けて生かすべきこと  
・世界に向けて発信していくべきこと

ステップ1の整理  
(40分) 

16:05 班別発表  
(10分) ・各班2分ずつ

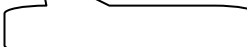
16:15 ~休憩~  
(5分)

ステップ1、2の  
両方について行う。

16:20 ステップ3：「まとめ」  
(35分) ・各班の成果を整理

・重要だと思う別々の  
島にシールを貼る

16:55 最後に  
(5分) ・総括ワークショップの案内と代表者の決定

17:00 終了  ・各班2人ずつ

・淡路地域ワークショップの様子



会場の東浦サンシャインホール外観



緊張の中、ワークショップが始まった



アイスブレイクでようやく笑顔が出始める



出された意見はパソコンに入力する



班で話し合った内容を発表する



代表者によるまとめ



全員参加での意見のまとめ



丸シールで重要だと思う項目に投票する

・ステップ1：各班のまとめ

10年間を振り返って(2004年6月5日 淡路1)

ボランティア活動はできたよとできなかったこと(16)

仮設住宅でのボランティア活動ができた(16)	ボランティア活動を広げることができた。(16)
災害発生時の助け合いができた(16)	実際のボランティア活動等に個人として参加できなかった。(16)

震災の時、一人暮らしをしていたので、10年と経っても特にピンとこない(16)

緊急輸送体制 物流の運送、船での輸送ができていない(16)

元に戻りたい被災者の声が届かなかった(元の家に住みたい、戻りたい)(16)

仮設住宅から避難住宅へ移った人の支援が継続できなかった(16)	災害避難住宅(仮設)で被災者の住んでいた場所へ戻ることができた(16)
震災保険ができていなかった(16)	人口の減少をくい止めることができなかった(16)

情報伝達手段が問題(災害時の情報受信に問題があった)(16)

災害の状況が伝わらなかった(本質的なもの)(16)	災害時の連絡手段の確保ができていない(16)
情報の伝達方法の問題である(16)	

地震予知の通報(16)

自宅が半壊になっているのがまだに直していない(16)

地域のコミュニケーションができたRできてない(16)

人との交流ができた(16)	人と人との距離が以前より少なくなった(16)
地域のよさについて考えることができた(16)	

震災に対する心構えができていない(16)

災害に対する一人一人の心構えが崩れた(16)	災害時の準備品の準備ができていない(16)
防災に対する心構えを常に持つことはできていない(16)	

災害弱者(具体的には障害者)に対応できていない(16)

住みやすいまちづくりができていない。バリアフリーユニバーサルデザインなどができていない(16)	障害を持つ人たちの災害時の受け場ができていない(16)
---	-----------------------------

災害を前提としたインフラが整備できた(16)

建物の防災対策ができた。(16)	道路整備等が進んだ(16)	道路幅ができた。(16)
避難道路の増設ができた(16)		防災無線ができた(16)

10年間を振り返って(2004年6月5日 淡路2)

住環境整備ができた。(20)

緑地整備、公園、道ができた(20)	広い道路ができた。(20)
住環境整備事業で生活道路、公共下水道事業で住宅地道路、排水設備が着てきた。(20)	防災記念公園ができた。(20)

まちづくり委員など、住民がまちづくりに参加する機会ができた。(20)

震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活面に影響を与えている(20)

海軍線の海面上昇、調理工事の費用に泣いているのでは？(20)	有害な廃棄物に付いた化学物質が多くなっている(20)
水の大変。汚染物により地下水まで汚れている。(20)	

ボランティア活動のめばえ、実施。(20)

ボランティア活動に参加するようになった。(20)	海防団での人命救助ができた(20)
田舎での交流ができていて感動しやすい。1軒でいる場所などの把握(20)	震災あまりお付き合いがない方たちを中心に協力し、おたがこと(ボランティア精神)が生まれた(20)
他の被災地への支援(物資、寄付等)ができた。(20)	

住宅再建をいそぎすぎて使えるものも捨ててしまった。(20)

家ができたが、早くしただけで良くなかった。(20)	自分の家(半壊認定)を建て替えることができたが、ローンの返済が大変。(20)
壊れた建物の再利用するまでもなく壊して捨ててしまったこと。今思えば、保存すべきものもたくさんあった。(20)	

心のケアができなかった(20)

「心のケア」住人へのケアがもっとほしかった。(20)	「心のケア」震災復旧の仮設住宅訪問ケア、アンケート調査取りができていなかった。(20)
----------------------------	---

管理からの備えの不備(20)

お世話になった方々の名前の記録がなかったことでいまだにお礼の言葉を申し謝らない(20)	震災への備え、備蓄品、毛布等の十分な確保ができていない。(20)
管理からの防災に対する心構えや備えができていない。(20)	

## 10年間を振り返って(2004年6月5日 淡路3)

家族の助け合いができるようになった(36)

みんなやさしくなった(36)

家族のつながりが強くなった(36)

助け合うという人の輪ができた(36)

仲間作り、助け合いができてない(36)

心のケアができていない(36)

道路の整備ができた(36)

中心地の区画整備ができた(36)

道路が広がった(36)

道路の整備がある程度できた(36)

道路幅大による立ち過ぎ(36)

道路の整備ができていない(36)

山間部の被災箇所の再点検が出来なかった(36)

道路の確保ができていない(36)

防災グッズ等の災害対策ができていない(36)

いざというときの防災グッズ用意していない(36)

災害に対する準備ができたつもりが忘れてきてきていない(36)

避難場所ができてない(36)

景観的な環境作りができなかった(36)

環境作り、公園化の事業がスムーズにいかなかった(36)

体系的まちづくり(景観)ができなかった(36)

景観的な環境作りができた(36)

地域の魅力しまちづくりについて考えることが出来た(36)

町が美しくなってきた(36)

建物の復旧ができた(36)

建物の復旧ができた(36)

住宅、建物の復旧ができた(36)

住宅等耐震補強ができた(36)

震災に対する知識がなかった(36)

経済的な流通・復興がおくれた(36)

経済的な復興ができていない、店、小さな店(36)

事業が完了しなかった(36)

道路がきれいになりつつある(36)

輪のための、交通ができた(36)

## 10年間を振り返って(2004年6月5日 淡路4)

コミュニティの輪が広がってきた！(46)

みんなが協力し合うことが出来た(46)

近所のつきあいが深くなった(46)

被災地のコミュニティの輪が大きく広がった。(46)

震災当時知らない人間士気難に声をかけ合えたが... (46)

被災時の初期対応が出来なかった。(46)

私自身ボランティアをする事が出来た(46)

復興整備事業が出来てきた。(46)

災害復旧はできた(46)

地域の被災した神社、集会所が新しくなった。(46)

土地の区画整備が出来た。(46)

復興住宅の完成が出来た。(46)

震災前のまちが戻っていない(46)

年一回の祭(たんじり)が数日間出せず、今もたんじりを出したりできなかったり(46)

被災した自動の建て直しが出来ていない(46)

休めるとどうしようも不安な気持ちがいっつも湧いてしまった。(46)

震災前の街が戻っていない(46)

震災前の活気が戻っていない(46)

町の人口が減少したまま(46)

地震の被害を受けなかったところもある。(46)

地震の影響を受けなかった。(46)

地震が起きたので調査に来た。(46)

防災意識がめばえた。(46)

防災に対する意識が高くなった。(46)

防災に対する意識もつようになった。(46)

次の災害に対する準備ができてない(46)

家において、非常時の用意ができていない。(46)

住居がまとまって防災に対する用意ができていない。(46)

## 10年間を振り返って(2004年6月5日 淡路5)

### 住宅・区画整備が進んでいない(5G)

家の補修が出来てない(5B)	定集住宅補修や商業集積事業等は完全に出来あかっているところがある(5G)
環境改善の補助の補填が出来てない(5G)	

### 住宅対策が早かった(5G)

住宅対策の早かったのが書かれている(5G)	復興住宅(町営住宅)が出来た(5G)
-----------------------	--------------------

### 家の修理が出来た(5G)

屋根の補修(5G)	家が壊れていたがあの程度元にもどった(5G)
前庭の補修は出来ているように(5G)	

### 家族や地域とのつながりが出来た(5G)

家族が増えた(5G)	個人の考え方よりも全体で考えるようになった(5G)
転居、サラリーマンが転職(5G)	本当の平等とは難しい(5G)

### 環境整備が進んだ(5G)

区画整理がほとんど出来つつある(5G)	まち並み、道路および街灯が整備がされた(5G)
都市計画(消防整備など)(5G)	消防の整備が出来た(5G)

### ボランティア活動や精神が高まった(5G)

ボランティア活動が生まれた(5G)
ボランティア精神が高まったと思う(5G)

### 思い出の町並みが消えた(5G)

今までとなり通みなどの思い出があった(旧町営マンション等が立ち立っているのが寂しくなった。と言っていた。(5G)	こわれた建物は直った(5G)
震災でなくなった友人の子に会ってうれしい(5G)	道の商店街がなくなりました(5G)
	町の中心から小さい店がなくなってしまった。今後の見直しも無理なよう(5G)

### 町並みが良くなった(5G)

花と公園が増えた(5G)	町が美しくなった(5G)
町はきれいになった(5G)	旧淡路の環境と景観がよくなった(5G)
景観が良くなった(5G)	

・ステップ1：淡路地域のまとめ

震災後10年を振り返って(2004年6月5日 淡路)

地域のつながりが広がったが、震災を知らない人が増え、つながりも一時に比べれば薄まった(30点)

震災後の地域とのつながり(10点)	震災前のつながり(10点)
震災前は、地域のつながりが広がっていたが、震災を知らない人が増え、つながりも一時に比べれば薄まった(30点)	震災前は、地域のつながりが広がっていたが、震災を知らない人が増え、つながりも一時に比べれば薄まった(30点)
震災前は、地域のつながりが広がっていたが、震災を知らない人が増え、つながりも一時に比べれば薄まった(30点)	震災前は、地域のつながりが広がっていたが、震災を知らない人が増え、つながりも一時に比べれば薄まった(30点)

復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)

復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)	復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)
復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)	復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)
復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)	復興整備事業は進んだが、島の思いの節が伝わらなかった(30点)

災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)

災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)	災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)
災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)	災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)
災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)	災害直後は知識や経験もなかったために、きめの細かい初期対応や情報の変換ができていなかった(27点)

ボランティア活動が活発になった(26点)

ボランティア活動が活発になった(26点)	ボランティア活動が活発になった(26点)
ボランティア活動が活発になった(26点)	ボランティア活動が活発になった(26点)
ボランティア活動が活発になった(26点)	ボランティア活動が活発になった(26点)

まちづくり整備が進んでいない(10点)

まちづくり整備が進んでいない(10点)	まちづくり整備が進んでいない(10点)
まちづくり整備が進んでいない(10点)	まちづくり整備が進んでいない(10点)
まちづくり整備が進んでいない(10点)	まちづくり整備が進んでいない(10点)

住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)

住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)	住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)
住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)	住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)
住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)	住宅の復旧はかき進んだが、その一方で元の場所に戻れないなど問題も残した(19点)

防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)

防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)	防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)
防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)	防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)
防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)	防災意識はあがったが、次の災害への備えはまだ十分ではない(34点)

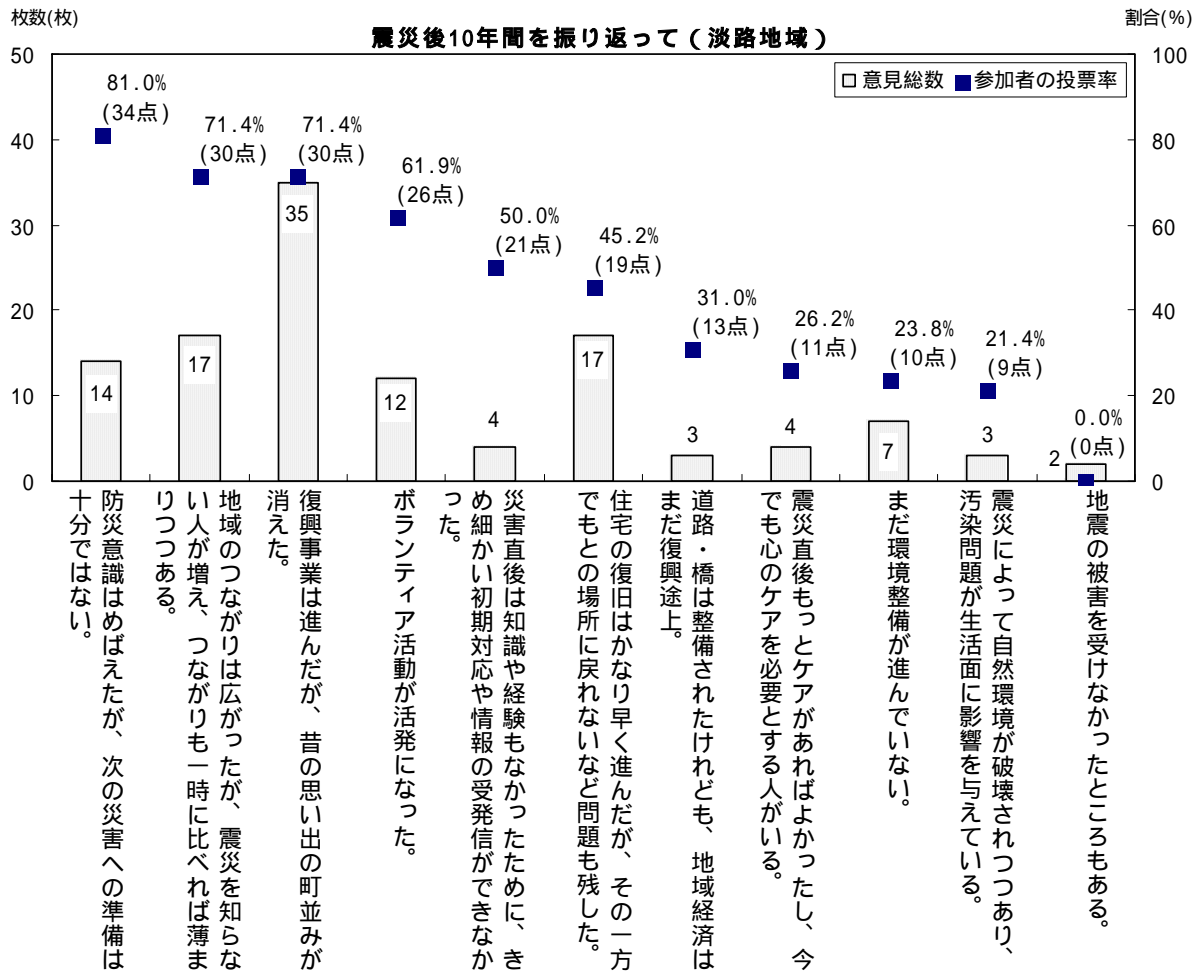
地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)

地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)	地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)
地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)	地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)
地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)	地震の被害を受けなかったところもある(46)(0点)

震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)

震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)	震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)
震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)	震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)
震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)	震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活に影響を与えている(20)

・「震災後10年間を振り返って」について



淡路地域の参加者42名が、会場全体でまとめた「震災後10年間を振り返って」は、大きく11項目に分類された。その中からそれぞれが重要だと思うものを5つ選び、丸シールを用いて順位付けを行った。

上図をみると、順位付けのない段階では、「住宅の復旧はかなり早く進んだが、昔の思い出の町並みが消えた。」に含まれる意見が最も多かったが、順位付けの段階では、「防災意識はめばえたが、次の災害への準備は十分ではない。」「地域をつなぐは広がったが、震災を知らない人が増え、つながりも一時に比べれば薄まりつつある。」を重要だと考えた人が多くなっている。

また、「道路・橋は整備されたけれども、地域経済はまだ復興途上」という項目の中には、「経済的な復興ができていない、店、小さい農家」や「事業が定着しなかった」など経済の回復が思うように進んでいないという意見もある。さらに、「震災によって自然環境が破壊されつつあり、汚染問題が生活面に影響を与えている」という項目の中には、「海岸線の海面上昇」、「社会成熟に伴う化学物質」、「汚染物による地下水の汚れ」など自然環境への意見もあった。

・ステップ2：各班のまとめ

将来に向けて(2004年6月5日 淡路1)

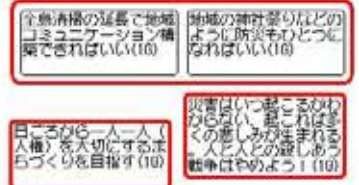
住民同士のコミュニケーションが  
できている地域にする(16)



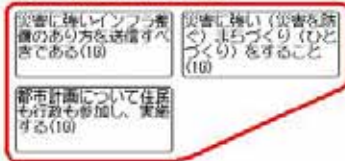
ボランティアのネットワークを生かしていくべきだ(16)

ITを活用して情報の確保をすること(16)

行事を通して仲間意識を作っていく(16)



住民と行政が協力し、災害に強いま  
ちづくりを行うこと(16)



震災の記録、教訓を後世に伝える(16)



震災に個人として備えることが大切だ(16)



震災に備える制度の充実(16)



将来に向けて(2004年6月5日 淡路2)

大規模災害時の国への個人補償・支援制度の拡充、要望を続けていく。(26)

震災によりもつれた心の糸をほぐす相談や、堅苦しくないイベントの実施。(26)

差別しないようにする。(26)

個人情報ICカードに人かし災害時に活用するシステムを構築する。(26)

解体の折、今後使用できるようなものはいったん預けるような場所を作り、検討するよう伝えて下さい。(26)

心の豊かさと何れでもって生きる。金・物ではなく徳性・知性・善性であること。(26)

防災意識の高揚。1・17防災の日に指定(26)

家族や親戚、友人に連絡をとりたい(電話など)(26)

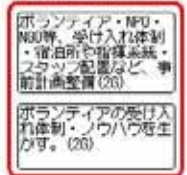
地域の小単位でのネットワーク作り(26)



モデルを内外へ発信し紹介していく(26)



ボランティアの受け入れと体制の整備(26)



普段からの防災危機管理体制を確立する。(26)





## 将来に向けて(2004年6月5日 淡路3)

### 防災意識を高めよう(30)

高齢者の子供まで災害に対する知識と心のよえ(30)	災害に対する心がよえ(30)
津波は津波で1、2メートルくおらしい。どうする？(30)	防災意識の向上(30)

単発的な災害復旧、防災整備でなく、継続的な計画の必要は。(基礎整備)(30)

### 災害予測箇所の再点検(30)

災害発生時の予測のある地域の点検作業(30)	震災後何年かたつておらした災害、例えば災害のために起きた地滑りや水道等の漏れなど(30)
------------------------	--

避難場所を作る(30)

### 助け合いをしよう(30)

コミュニティをはひるイベント(金)を続ける(30)	ボランティア活動を促進する環境作り(30)
運動、助け合い、(ボランティア)をいひず(30)	思いやり、助け合いの心を入切にする。(30)
	小地域での対策取り組むなら必要、町内会単位(30)

### 情報伝達の整備(30)

情報伝達の整備(30)	世界にむけ安心情報発信(30)
-------------	-----------------

### ライフラインの確保(30)

ライフライン(特に水)の確保、農業等産業で利用する水(30)	電気、ガス、水、病院の確保(30)
--------------------------------	-------------------

### 環境作りをしよう(30)

環境から子が育つ(30)
自然から花をいっぱい(30)

いつ何が起るかわからない。一日一日を入切に通こす(30)

## 将来に向けて(2004年6月5日 淡路4)

### 震災を忘れないためにイベントやメモメントを計画していく(40)

災害の状況、対応策を経験者の立場として伝えていく(40)	震災を忘れないために、毎年イベント等を行う。後世へ伝える。(40)
日仏友好復興の推進メモメントの早期実現(40)	年に1回防災意識を喚起する事業をする(防災の日)(40)

個人は、連絡手段や避難方法をあらかじめ考え、行政や、ボランティアは、対応のノウハウを蓄積していく事が大切だ(40)

災害が起きた時のためのメールリスト等の構築(40)	災害に対する準備をしておく。自分の回り、周りなど(40)
被災者対応のノウハウを記録。ボランティア、自治体(40)	非常時の対応、マニュアル等の作成及び住民への周知(40)
備えあれば憂いなし(40)	非常事態を考えた日常から意識する。・連絡手段・避難法etc(40)

この検証が物議の標的にならないように。(40)

まっさらとした復興をする。(区道整理など)(40)

高齢者に対応できる環境の充実(40)

### 地域コミュニティをひろげていく(40)

みんないつでも地域コミュニティを生かしたい感だ。面はためた。(40)	開開どのつなびがりを失くさないように(40)
身近な人間士で情報を広げず。(40)	知らない人へ気軽に声をかける(外国人がハローと言ってくれるように)(40)
	地域のつなびがりを広めていく。(40)

世界にすばらしい被災地の復旧、復興、歩みを見せる(40)

### 世界に誇れる島づくりとまちづくり、ヒトづくり(40)

いざんえ国々を指さす人達を、淡路島で育てたい(40)
公園都市美しいまちづくり。人々が喜んで来てもらえるまちづくり(40)

## 将来に向けて(2004年6月5日 淡路5)



・ステップ2：淡路地域のまとめ

将来に向けて(2004年6月5日 淡路)

ボランティアの受け入れや組織化を今後充実させていくことが大切。(25点)

ボランティアの受け入れや組織化を今後充実させていくことが大切。(25点)	ボランティアの受け入れや組織化を今後充実させていくことが大切。(25点)
ボランティアの受け入れや組織化を今後充実させていくことが大切。(25点)	ボランティアの受け入れや組織化を今後充実させていくことが大切。(25点)

住民同士・地域のつながりを大切にしよう。(37点)

住民同士・地域のつながりを大切にしよう。(37点)	住民同士・地域のつながりを大切にしよう。(37点)
住民同士・地域のつながりを大切にしよう。(37点)	住民同士・地域のつながりを大切にしよう。(37点)

日ごろから自分たちでできる備えを実践しよう。(27点)

日ごろから自分たちでできる備えを実践しよう。(27点)	日ごろから自分たちでできる備えを実践しよう。(27点)
日ごろから自分たちでできる備えを実践しよう。(27点)	日ごろから自分たちでできる備えを実践しよう。(27点)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる。(27点)

災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる。(27点)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる。(27点)
災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる。(27点)	災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる。(27点)

これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう。(4点)

これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう。(4点)	これから大切にしていきたい人生の価値を考えていこう。(4点)
--------------------------------	--------------------------------

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくっていこう。(17点)

安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくっていこう。(17点)	安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくっていこう。(17点)
安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくっていこう。(17点)	安全・安心で美しく心豊かな住まいやまちをつくっていこう。(17点)

被害抑止策、被害軽減策、災害対応、復旧・復興策のすべての面面で行政は力をいれてほしい。(29点)

被害抑止策、被害軽減策、災害対応、復旧・復興策のすべての面面で行政は力をいれてほしい。(29点)	被害抑止策、被害軽減策、災害対応、復旧・復興策のすべての面面で行政は力をいれてほしい。(29点)
被害抑止策、被害軽減策、災害対応、復旧・復興策のすべての面面で行政は力をいれてほしい。(29点)	被害抑止策、被害軽減策、災害対応、復旧・復興策のすべての面面で行政は力をいれてほしい。(29点)

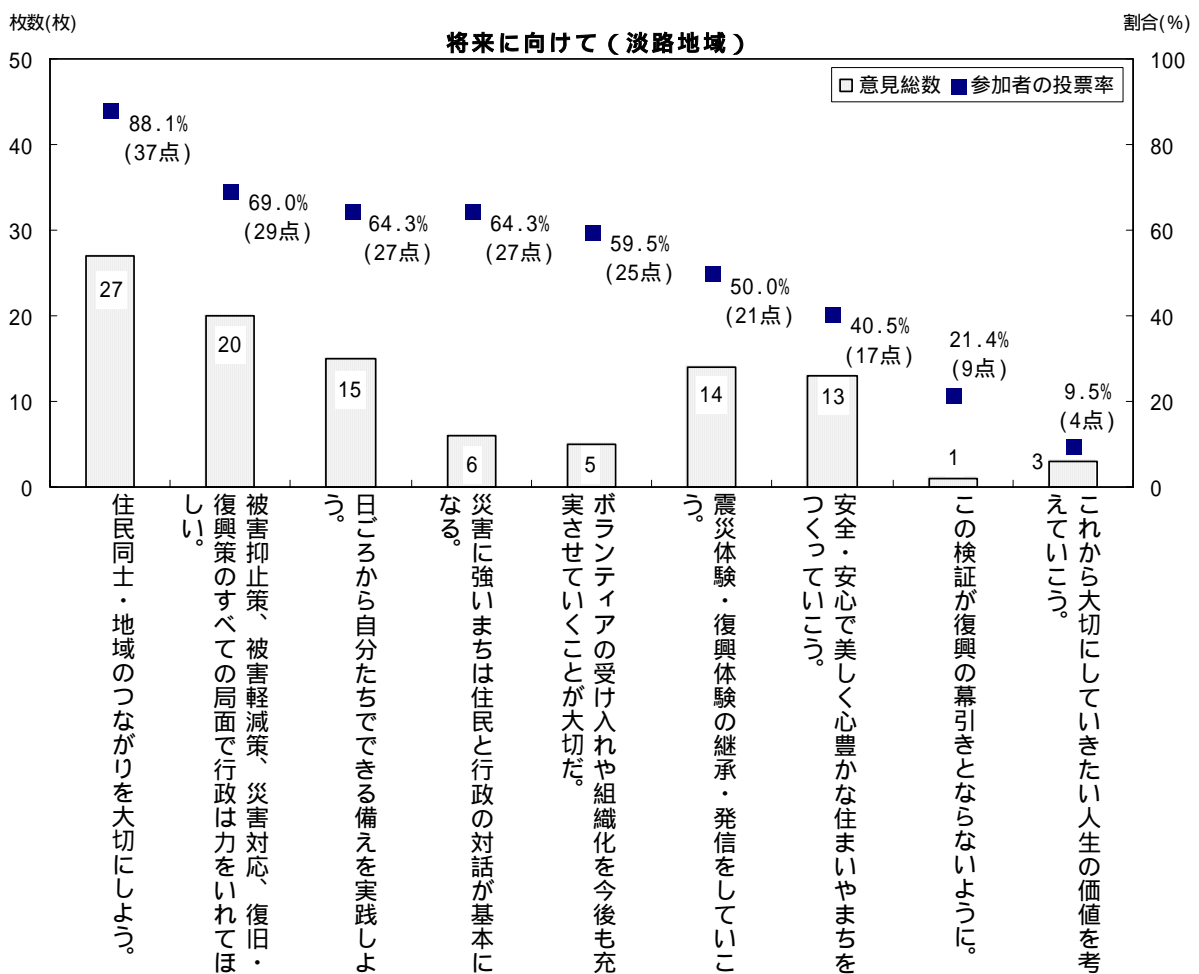
震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。(21点)

震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。(21点)	震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。(21点)
震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。(21点)	震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。(21点)

この地区が復興の鍵になることではないように。(9点)

この地区が復興の鍵になることではないように。(9点)	この地区が復興の鍵になることではないように。(9点)
この地区が復興の鍵になることではないように。(9点)	この地区が復興の鍵になることではないように。(9点)

・「将来に向けて」について



会場全体でまとめた「将来に向けて」については、大きく9項目に分類された。その中からそれぞれが重要だと思うものを5つ選び、丸シールを用いて順位付けを行った。

上図をみると、順位付けのない段階では、「震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。」に含まれる意見が最も多かったが、順位付けの段階では、「災害に強いまちは住民と行政の対話が基本になる。」「ボランティアの受け入れや組織化を今後も充実させていくことが大切だ。」を重要だと考えた人が多くなっている。

また、「震災体験・復興体験の継承・発信をしていこう。」という項目の中には、「野島断層を永久保存し、今後の研究に生かす。」というような淡路地域のみでみられた意見も含まれている。